

麻しん患者の報告が増えています

- ◆ 現在フィリピンなどでは麻しん(はしか)が流行しており、海外からの輸入例が、特に首都圏で増えています。
- ◆ 国内で感染した人では、本人の気づかないところで麻しん患者と接触し、感染したことが疑われています。
- ◆ 麻しんの予防には2回の予防接種が必要です。定期予防接種(1回目:1歳以上2歳未満、2回目:5歳から7歳未満で小学校就学前1年間)で、麻しん・風しん混合ワクチン(MR ワクチン)を確実に接種しましょう。

麻しん(はしか)とは?

空気感染、飛沫感染や接触感染など、様々な経路で感染し、10～12日ほどの潜伏期を経て発症します。

非常に感染力が強く、命に関わることもある重篤な感染症です。最初は38℃前後の発熱や咳などの症状が出て、その後熱が1℃程度下がった後、半日くらいして再び高熱(多くは39.5℃以上)と発疹が現れます。感染が疑われる際は、事前に電話で相談の上、早めに医療機関を受診しましょう。

- ◆ 参考: [麻しんについて\(国立感染症研究所\)](#)
[麻しん\(はしか\)について\(横浜市保健所\)](#)



顔面にみられる発疹
(国立感染症研究所)

麻しん患者発生状況(市内感染症発生動向調査)

	発病月	年齢	海外渡航先	予防接種歴	遺伝子型
1	12月(昨年)	30歳代	グアム	不明	B3
2	1月	幼児	フィリピン	無し	B3
3		乳児	フィリピン	無し	B3
4	2月	30歳代	フィリピン	不明	B3
5		乳児	渡航歴無し	無し	検査中
6		30歳代	渡航歴無し	調査中	B3

昨年12月から6名が報告(横浜市民が市外医療機関を受診した報告含む)されています。B3型は、海外で流行している麻しんウイルスの遺伝子型です。

予防接種について

- 特異的な治療薬などは無く、予防接種が重要です。
- 定期接種の対象者は、今すぐワクチン接種を！！
- 成人については、横浜市では風しん対策としてMRワクチンの助成を平成26年3月31日まで行っています。この機会に是非接種しましょう！！

- ◆ 参考: [風しんの流行について\(横浜市保健所\)](#)